

液体ミルク

Q：乳幼児用の液体ミルクが使用できるようになったと聞きましたが？

A：2019年3月より国内での製造・販売が開始されました。

今春(2019年)から乳幼児用の液体ミルクが発売されました。現在は江崎グリコと明治の2社から販売されています。

日本ではこれまで乳等省令(乳及び乳製品の成分規格等に関する省令)において、乳幼児用の乳製品は粉乳に限定されていましたが、昨年8月に改正され、液体ミルクの国内販売が解禁となりました。

粉ミルクの場合は、哺乳瓶を煮沸消毒して粉ミルクの分量をはかり、お湯で溶かしてから適温まで冷ますといった手間がかかります。液体ミルクの場合は哺乳瓶に移し替えるだけなのですぐに授乳できます。

乳児用液体ミルクは、液状の人工乳を容器に密封したものであり、常温で長期間の保存が可能です。授乳者の負担軽減や安全面で次のような利点が考えられます。

- ①夜間や共働き世帯で時間が限られているとき、保育者の体調がすぐれないとき、さらには母親が不在のときなどでも、簡便かつ安全に授乳を行うことができる。
- ②調乳用のお湯(70℃以上)が不要であり授乳に必要な所持品が少なくなることや、調乳を行わずに済むことから、簡便に授乳を行うことができる。
- ③地震等によりライフラインが断絶した場合でも、水、燃料等を使わずに授乳することができるため、国内の流通体制が整い、使用方法やリスクに関して十分に理解されることを前提として、災害時の備えとしても活用が可能である。
- ④乳児を伴って来日する外国人の利便にも寄与する。

昨年の北海道胆振東部地震では輸入品が支援物資として被災地にとどけられましたが、液体ミルクへの認識不足から配られなかったということもあったようで、今後の周知も課題となっています。

海外の液体ミルクには乳首型の吸い口がついたものもありますが、今回、国内で作られたものは両社とも消毒した哺乳瓶に移し替えて使用するタイプのもので、災害時には哺乳瓶を消毒できない場合もあることから粉ミルクや液体ミルクとあわせて、使い捨ての哺乳瓶を備蓄するよう勧められています。

いずれの商品も滅菌済みで温める必要はなく、保存料も入っていません。生後0ヵ月から飲ませることができます。同量の粉ミルクと栄養成分はほぼ同じです。

日本で販売している液体ミルク(2019年6月現在)

		
商品名	アイクレオ赤ちゃんミルク	明治ほほえみ らくらくミルク
販売会社	江崎グリコ	明治
容器	紙パック	スチール缶
容量	125ml	240ml
賞味期限	6カ月	1年
希望小売価格(税別)	200円	215円

<注意する点>

- ・開封前によく振るなどの使用方法を確認すること。
- ・水で薄めず、消毒済みの哺乳瓶など清潔な容器に移して与える。
- ・開封後は速やかに与え、飲み残しは雑菌が繁殖しやすいので捨てる。
- ・常温で保存できるが、直射日光が当たる場所や火の近く、夏場の車内などは避ける。などです。

赤ちゃんの授乳と離乳食に関する国の指針「授乳・離乳の支援ガイド」が2007年以来12年ぶりに改定されました。

主に、母乳によるアレルギー予防効果はないこと、母乳のみと混合栄養(母乳と粉ミルクを併用)では肥満リスクに差はないこと、粉ミルク育児を選択する親の決定を尊重し、母親に安心感を与える支援が必要などと改定されました。

【 参考文献 】

- 1) 朝日新聞、2019年3月23日
- 2) 授乳・離乳の支援ガイド：
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html
- 3) 内閣府男女共同参画局ホームページ
<http://www.gender.go.jp/policy/saigai/milk.html>